

# 津波被害跡地に植栽したマツ類および広葉樹類の初期生育（Ⅷ）

## －大田地区植栽試験地の植栽2年後までの成長経過－

### 1 はじめに

東日本大震災津波で被災した防潮林再生の課題のうち、松くい虫抵抗性アカマツや広葉樹類の津波被害跡地での生育適性を明らかにするため、県内4ヶ所に植栽試験地を設置した。これまで、大湊地区、明戸地区植栽試験地の生育状況、大田試験地の生存率について報告した。

今回は、大田地区植栽木の植栽2年目までの成長経過を報告する。

### 2 試験地および調査方法

試験地は、沿岸南部の大船渡市末崎町大田地区である。平成25年6月、アカマツほか9樹種12処理で400本を植栽した。

植栽木の成長は、根元径と樹高の測定により調査した。なお、植栽樹種、処理、測定方法など詳細は既報のとおり。

#### 結果と考察

##### (1) 直径成長

マツ類では、植栽2年目に大きく成長した。抵抗性アカマツ（コンテナ苗）の成長が良好であったが、普通苗（裸苗）ではやや劣る傾向であった（図1）。

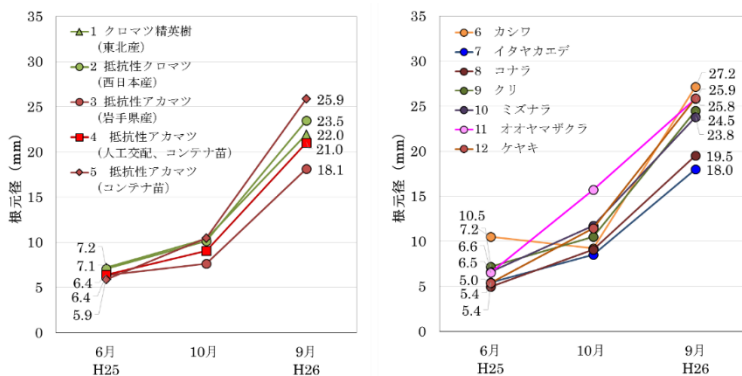


図1 根元径の推移

広葉樹類では、オオヤマザクラ、ケヤキの成長が良好であった。カシワの根元径が低下しているのは、枯死により本数が減少したためである。

##### (2) 樹高成長

マツ類では、大きな差がなかったが、広葉樹類では、直径成長同様、オオヤマザクラとケヤキの成長が良好であった。オオヤマザクラは、他の試験地と異なり、植栽2年目以降成長が継続した。

クリは、植栽時部分枯れのため、樹高が低い値となったが、他の広葉樹類と同等の樹高に回復した。

これまで成長の良好であった大湊試験地の植栽3年後の平均根元径は約22mm、平均樹高は約109cmであったが、大田地区では、植栽2年後に、大湊地区と同程度の大きさとなった。

### 4 成果の活用

大田試験地は、明戸試験地の約3年後の大きさと同程度で、非常に良好であった。

成長が良好である原因等、土壌条件、環境条件、地下部の状況などを明らかにし、防潮林の早期再生へ活用する。



図3 大田地区植栽試験地 (H26.9)

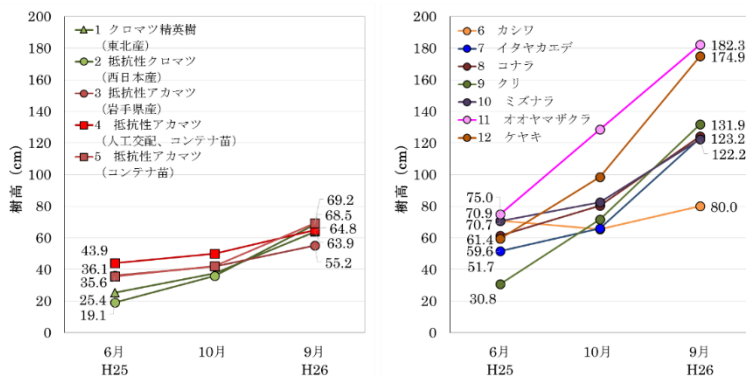


図2 樹高の推移



図4 カシワ（再植栽、左）、クロマツ精英樹（東北産、中央）、ケヤキ（右）

(担当 研究部 上席専門研究員 小岩俊行)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
 岩手県林業技術センター  
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536  
 FAX 019-697-1410

